# 第３回「こんにちは！市長です」開催概要

**開 催 日**：令和８年９月 15 日（火曜日）14 時 00 分から 15 時 20 分
**開催場所**：多世代交流館ふらっと　子育て交流ひろば内会議室
**参 加 者**：さんだファミリーサポートセンター　計７名【サブリーダー（協力会員)、
アドバイザー（依頼内容に関する会員間の活動調整)、三田市社会福祉協議会職員】

**【アドバイザーからさんだファミリーサポートセンターの概要・近況等説明】**
・会員数（依頼・協力・両方会員）は合計で 1,000 人を超えており、月 30 人ぐらいが相互援助活動を行っている。活動のうち、習い事などへの送迎が８～９割を占める。
※依頼会員：子育ての援助を受けたい会員、協力会員：子育ての援助を行いたい会員、両方会員：依頼会員と協力会員の両方に登録している会員
・療育を受けるための事業所への送迎活動が最近増えている。全送迎件数に占める障害児送迎の割合が、令和７年度は令和元年度の３倍くらいに増えている。協力会員の高齢化もあり、支援依頼があっても協力会員を探すのが難しくなっている。
・何か困ったことが生じた時の「お守り」として、安心感を得るために依頼会員として入会する保護者が増えてきたという経緯もある。協力会員と依頼会員の間で利用に向けた事前の打ち合わせを行っても、利用に至らないケースもあり、その場合は報酬が発生しない。
・活動に対する報酬が１時間 800 円で、産後等ヘルパー派遣事業における報酬と大きな差異がある。内容はそれほど変わらないにも関わらず報酬格差が広がっている。
※産後等ヘルパー派遣事業：日中に同居の親族がいない等のために妊娠中・出産後に支援が十分に受けられず、家事や育児が困難になっている家庭にヘルパーを派遣する事業

**【ファミリーサポートセンターの活動等について】**
・もともと、「保護者の役に立ちたい」という思いから協力会員になり、「やりがい」を求めて活動している人も多く、活動する中で接しているこどもから得るものもたくさんあった。かつては、ほぼ丸一日こどもを預かったこともあったが、今は児童クラブから習い事への送迎など、送迎活動が圧倒的に多く、昔と状況が異なってきている。
・預かりで言うと、病院に行きたいとか趣味をしたい、という人のために預かりをすることもある。
・新しい協力会員が入ってこない。物価高騰など生活が厳しくなっており、一定の収入を得ようとする人が多く、ボランティアしようとする人が少なくなっている。75 歳まで働いていたら、そこからボランティアするのは難しいと思う。
・最近は保護者がとても忙しくなっていて、それがこの活動に様々な影響を与えているように思う。支援対象に中学生を含める必要があるのかなど、ファミリーサポートセンターの在り方を考える時期にきているのでは、と思う。
・20 年以上前から１時間報酬の 800 円が変わっていない。私自身は子育てがとても楽しくて、できれば働きたくなかった。今の保護者の中で、子育てをもっとしたい、趣味もしたい、ある程度収入もほしいという層がいたら、ファミリーサポートセンターで支援活動をするのもいいかもと思ってもらえる可能性があるのでは。そのためには、報酬の金額を上げることは効果があるかもしれない。
・最低賃金まで報酬金額を上げると「仕事」になる。ボランティアという「ゆるさ」から活動が成

り立っている部分もあると思われ、塩梅が難しい。金額を上げることによって利用者の意識が変わるのでは、という思いもある。
・急なキャンセルがあるなど、安定した収入に繋がらないことが、協力会員が増えない一つの要因だと思う。このようなことを含めてボンランティア活動をしよう、と受け入れてくれる若い人は少ないように思う。
・高齢者向けの送迎活動をしている団体では、利用者が支払う料金に上乗せされた金額がサポートする側の報酬になっていることもある。
・ファミリーサポートセンターが実施する講習は受けているものの、何も資格がない自分が支援活動をしてもいいのか、という思いがある。
・最近制度が変わり、協力会員と依頼会員の事前の打ち合わせの際に、アドバイザーが同席することになった。アドバイザーが一緒に考えてくれるので協力会員の心理的負担がとても軽くなった。

**【配慮が必要な子への支援について】**
・高齢になり不安があるため、こどもを車に乗せる支援活動を今はしていない。後部座席でじっと座ることができないこどももいるため、１人の協力会員で支援するのは大変なケースも多いと思う。支援に伴うリスクも高く、ファミリーサポートセンター以外で支援ができればいいと思う。
・昔より子育てしながら働きやすい環境になったものの、各制度の狭間で困りごとに直面し、支援してほしいという相談も多い。ただ、協力会員２人で活動が必要になった場合、報酬も２倍支払うことになるので、依頼会員の負担が増え大変だと思う。特に障害者施策の分野などで、送迎バス等の仕組みが整えばいいと思う。
・障害児を預ける場所がなく、母は美容院にも行けないので預かってほしい、という声を聞いて、この活動に関わるようになった。
・ボランティアでするにはリスクが高い活動が多くなっているように思う。例えば配慮が必要な子の預かりを市民センターの一室でやるなど、「拠点型」にすれば、より預かりやすくなるのではないかと思う。
・ひとり親家庭で、こどもが中学生になったばかりだが、バランス感覚を保つことが難しく自転車通学できないという相談があった。バスの路線がなくなってしまい、スクールバスでは通学できず、ファミリーサポートセンターは小学６年生までなので支援対象外となってしまう。仕事をしているので、保護者が送迎することもできない。各所に相談したが、「通学は家庭の責任で」と言われたそうだ。義務教育期間なのに、学校に通えない状況になっている。この子に限らず、中学生でも支援が必要な子が一定いるのではないかと思う。

**【その他】**
・家の中にこどもを一人にしておくことや二度寝してしまうのではないかといった心配などがあり、保護者の出勤にあわせて、朝７時にこどもも外に出て、集団登校の集合時間まで公園で待っていることがある。この状況を心配して、ある地域が集会所を開放して支援しようと動いたことがあったが、保護者が遠慮して結局利用がなかった。家庭の状況によって、放課後だけではなく朝の居場所のニーズも生じてきている。かつて武庫小校区では朝食支援をしていた。三輪小校区も現在朝食支援をしている。
・様々な場所からこどもの声を拾い、繋ぎ合わせる仕組みづくりが必要ではと思う。

・地域の中でお互いが疎遠になってきており、地域力が問われているように思う。
・昔のように「おたがいさま」ということができなくなっているのでは。
・みんなが少しずつ力を合わせることが必要で、少しずつであれば、気軽に力を合わせることができる。今は何かあると責任問題になることが多いため、１人でやるのではなく分担することが大切ではと思う。
・こども食堂の主催者から「こども食堂への市からの補助金、とても助かります」の声を聞いている。利用するこどもも増え、物価高騰等もあり、補助金がないとやっていけない、補助金にかかる手続きも簡単にしてもらって有難い、と言っておられた。

**【市長より】**
・三田市では令和７年度から子育てに関する「６つの無料化」を実施しており、今年度から小学校の給食費無償の国の制度も始まったため、小学校と中学校どちらも給食の無料化を実現している。「給食代が無料になった分、少しでも子育て費用に使えるのは嬉しい」という声も聞いている。
・ファミリーサポートセンターはボランティアだが、様々な課題が出ている。ファミリーサポートセンターは協力会員あっての活動なので、協力会員のためにどのような仕組みが良いのかといったことを考えていかないといけないと思う。
・朝の時間帯に、こどもが地域の人とコミュニケーションをとれる機会はとても大切だと思う。
・高齢者運賃助成制度の見直しを考えている。利用率は 50%強くらいだが、広く使えるようにするのがいいのか等も含め、公共交通機関がなくなる路線や学校再編の問題など総合的に考える必要があると思う。課題として持ち帰らせていただく。
・現在、市の総合計画の後期基本計画を策定中で、その中でも検討しているが、「おせっかい文化」の醸成が必要だと思う。地域の中で「こんな課題がある」と話し合う場所があり、地域の中で解決できるようになることが理想的だ。

**いただいたご意見・ご提案は今後の市政運営の参考にさせていただきます。**